

Title	都市ガス事業の規制緩和の方向性に関する一考察-日英の都市ガス事業の比較研究-
Sub Title	
Author	比護隆(Higo, Takashi) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1470号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1470

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	中村研究室	学籍番号	89728869	氏名	比護 隆
(論文題名)					
<p>「都市ガス事業の規制緩和の方向性に関する一考察」</p> <p>—日英の都市ガス事業の比較研究—</p>					
(内容の要旨)					
<p>イギリスで行われているガス事業における規制緩和の特徴は、独占的かつ垂直統合されていた事業形態を垂直分割して競争を導入した点にある。参入障壁となっていた大規模な投資が必要な輸送部門を分離し、原料調達部門（上流部門）や販売部門（下流部門）への新規参入を容易にすることで、競争原理により価格引き下げへのインセンティブを持たせている。本論文の目的は、産業構造を大幅に再編してきたイギリスの都市ガス事業と垂直統合的な日本の都市ガス事業を比較し、日本におけるイギリス型の産業構造再編の有効性を検討することである。</p> <p>輸送事業は、パイプライン建設に大規模な投資が必要となる事業であり、その建設計画には長期的な需要情報が不可欠である。イギリスのように企業を垂直的に分割すれば、設備計画のために必要な需要情報がスムーズに流れず投資リスクが増大する。その結果、輸送事業を行う企業は、過度な投資リスクを避けるため最適な設備投資を行わない可能性がある。ところが、イギリスと日本の都市ガス事業の輸送設備・投資等を比較分析した結果、イギリスの全国的なパイプラインネットワークは、日本の都市ガス事業におけるネットワークとは規模と仕組みが異なり、経済性の差があることがわかった。そのため、イギリスでは、輸送事業の今後の投資が日本と比べて相対的に低いものとなっており、そもそも投資リスクは大きな問題とならない。一方、日本でイギリス型の垂直的分割を行うという産業構造の再編をするならば、投資リスクの増大をどのように扱うべきかという課題への対応が必要になる。この点は、今後の規制緩和の方向性を考える上で重要である。また、日本の都市ガス事業者にとっては、今後の設備投資の展開は大きな戦略的課題である。</p>					